

生活科学習指導案

令和元年11月 日()第5校時() 1年 組教室
小学校 1年 組 指導者

授業の視点

家庭での仕事を実際に体験する場面において、お仕事先生(ボランティアの方)から教わった仕事のやり方を、演示を交えながら友達と互いに教え合う活動を取り入れたことによって、仕事には様々なよりよいやり方やコツがあることに気付くことができるであろう。

1 単元 じぶんでできるよ

2 単元設定の理由

(1)教材観

本単元は、学習指導要領生活科の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」を受けたものである。

家庭は児童にとって最も身近な社会である。人が信頼関係を築き、互いに分担した役割を果たすという意味で、家庭は社会の縮図であると言える。家庭の中では、家族一人一人が家庭の内外で仕事や役割を果たし、思いやりや愛情をもって互いに支え合い、家庭生活が営まれている。しかし、児童にとって家庭はあまりにも身近であるため、家族の思いやりや愛情、仕事や役割について自覚していないことが多い。そこで、本単元にあたっては、児童が自分の家族に焦点をあて、家族との生活を振り返り、家族のよさや温かさを実感するとともに、家族にしてもらっていること、家庭生活における自分のこと、自分でできることなどについて考え、自分の役割を果たすとともに、規則正しく健康に生活できるようにすることを目指している。

本単元では、児童が家族とともにしていることや家族にしてもらっていることを振り返り、家庭でできる仕事を学校でボランティアの方に教えてもらったり、友達と教え合ったりしながら実際に体験して、家族のことや家庭生活において自分でできることなどについて考え、実践をしていく。このような学習活動を通して、家庭の中での自分の生活を見直すとともに、自分でできる仕事や役割を見出し、積極的に自分の役割を果たしていこうとする意欲を高めることができるであろうと考える。また、家庭における自分の生活を見直すことで、家族の一員として、規則正しく健康に気を付けてよりよい生活をしようとする意識も高めていくことができるであろうと考える。

(2)児童の実態

<生活への関心・意欲・態度>

<活動や体験についての思考・表現>

<身近な環境や自分についての気付き>

3 目標

家庭生活について、調べたり、手伝いをしたりすることを通して、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家の人のことや、家の人のよさ、自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

4 評価規準

評価する観点	おおむね満足できる状況
生活への関心・意欲・態度	家庭生活を支えている家の人々のことや、自分でできることなどに関心を持ち、家庭生活における自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとしている。
活動や体験についての思考・表現	家庭生活やそれを支えている家の人のこと、自分でできることなどについて、自分なりに考えたり、家庭生活が楽しくなるように工夫したりして、それらを振り返って、友達と伝え合っている。
身近な環境や自分についての気付き	規則正しく健康に生活することの大切さや、家庭生活を支えている家の人のよさなどが分かるとともに、自分でできることや、役割に気付いている。

5 指導と評価の計画(全15時間)

過程	時	学習活動	学習への支援	評価項目(評価方法)
であう	事前	○家庭での自分の1日の生活を振り返り、「わたしのせいかつ」という絵を描く。(図画工作)(1日の生活調べを宿題で行う。)	・自分の1日の生活を振り返り、朝から夜までの家庭での様子を自由に選んで絵に描くことを通して、自分でできることや家族との関わりの場面等、様々な家庭生活の姿が出るよう配慮する。	【関・意・態】 自分の1日の生活を振り返り、ワークシートと絵に表そうとしている。(絵・ワークシート・観察)
	1	○絵を基に、「自分の生活」を発表し、気付いたことから、ワークシートに自分でできること、お手伝いしていること、家族にしていること、家族にしていることをまとめる。	・自分の1日の生活を振り返り、ワークシートにまとめることを通して、自分の生活には家族の人が大きな関わりをもっていることに気付けるようにする。 ・互いの生活を比較し合う際には、様々な家庭生活の様式があることを考慮できるように事前指導を行う。	【気付き】 家族の人が自分のために、たくさんのことをしていることに気付いている。(ワークシート・発言)
	2	○家庭で見つけた家族の仕事を、ワークシートに書き出していく。(家族の仕事調べを宿題で行う。)	・家庭で調べてきた家族の仕事の中で一番伝えたい仕事を選び、誰がどんなときに何をして、どんな気持ちで仕事をしているのか、それを聞いて自分はどんな気持ちになるのかをまとめるようにする。	【思考・表現】 家族の仕事調べをして感じた家族の思いや願い、自分の思いを表現している。(ワークシ

				ト・発言)
	3	○ワークシートを基に家族が自分たちにしてきていることを紹介し合う。	・自分の家族の仕事の様子に加えて、友達の発表を聞くことを通して、自分のために家族がたくさんのことをしてくれていることや家族の思いに気付くことができるようにする。 ・家族の人の仕事の多さや仕事をしているときの気持ちに触れることで、児童の「お手伝い(お仕事)をしたい。」という意欲を高められるようにする。	【気付き】 家族の人が家庭の中で皆が生活できるように様々なことをしてくれていることに気付いている。(発言・つぶやき・観察)
は た ら き か け る	4	○家族のために自分でやってみたい仕事をワークシートにまとめ、発表し合う。	・家族のために自分ができる仕事について考える際には、多様な意見が出るように、少人数のグループで交流する機会を設ける。	【思考・表現】 家族の中で自分にできる仕事を考え、ワークシートにまとめている。(ワークシート・発言)
	5	○やってみたい仕事をお仕事先生と一緒に体験する計画を立てる。	・やってみたい仕事別にクラスを6つのグループに分け、お仕事先生(ボランティアの方)に教えてほしいことや聞いてみたいことを話し合っまとめてるようにする。	【関・意・態】 家族のために自分がやってみたい仕事の体験計画を立てようとしている。(ワークシート・発言・観察)
	6	○お仕事先生と仕事を体験する。(お仕事体験1)	・仕事の体験を始める前に、前時にグループでまとめた、教えてほしいことや聞いてみたいことをお仕事先生に伝えることで、仕事のこつやよりよいやり方を見付けることができるようにする。	【気付き】 お仕事先生に教わったり、自分で考えたりしながら、仕事のこつやよりよいやり方に気付くことができている。 (発言・つぶやき・観察)
は た ら き か け る	7	○お仕事先生から教わった仕事のやり方やこつをまとめ、友達に教えるための準備をする。	・お仕事先生に教えてもらった仕事のこつや自分が体験した仕事のやり方を友達に教えるために、演示を交えるなど、分かりやすくまとめる必要性を伝え、目的意識をもって準備が進められるようにする。	【思考・表現】 体験した仕事のやり方やこつを分かりやすく友達に教えるために、工夫している。(ワークシート・発言・観察)

8 9 10 11 12 本 時	○友達と自分が体験した仕事のやり方を教え合う。(お仕事体験2～6)	・2つのグループずつ交代で、実際に体験しながら、仕事のやり方やコツを教え合うようにする。(5時間) ・体験を通して気付いたことをまとめる時間を十分に確保する。	【気付き】 仕事のやり方を教え合う中で、よりよいやり方やコツに気付くことができている。(ワークシート・観察)
13	○家族のためにやってみてみたい仕事を「お手伝い大作戦カード」に書き、計画する。 (1週間の「お手伝い大作戦」を宿題で取り組む。)	・お仕事体験で経験したことから、家庭で実践したいお手伝いを選び、1週間継続してできるように計画を立てる時間を設ける。 ・同じお手伝いをしたい子ども同士が互いにアドバイスできるよう配慮する。	【関・意・態】 体験を基に、家族のために自分がやってみてみたい仕事の活動計画を立てようとしている。(ワークシート・発言・観察)
ふ り か え る	(図工・国語) ○「お手伝い大作戦」で自分が取り組んだことを振り返り、よかったことや気付いたこと、自分や家族の願いについて絵と文にまとめる。(図工1、国語1)	・自分がお手伝いを体験して、がんばったこと、うれしかったこと、むずかしかったこと、よくできるようになったこと、家族への思いを、ワークシートを使い、簡単な文にまとめられるように支援する。	【思考・表現】 「お手伝い大作戦」の体験を通して、家庭生活における役割が増えた自分の成長や家族への思いを表現している。(ワークシート)
ふ り か え る	(国語) ○前時にまとめた絵や文を基に、「お手伝い大作戦」の報告会をする。(国語1)	・発表を基に、これからも仕事を続けるために、どんな工夫をしたらよいか、他にはどんなお手伝いをしたいか話し合い、これからも継続する意欲へとつなげるようにする。	【気付き】 「お手伝い大作戦」を振り返り、家庭生活における役割が増えた自分や友達の成長や家族への思いに気付いている。(発言・ワークシート)
14	○自分でできる仕事(お手伝い)だけでなく、家族の一員として、これから自分が続けていきたいことや、自分にもできることは何かを話し合い、ワークシートに書く。	・家族のために自分ができることについて、お手伝い以外にもできること(自分でできること、家族が嬉しくなること)を考える時間を設ける。	【思考・表現】 「お手伝い大作戦」の体験をもとに、家族の一員として、自分でできることを考えている。(ワークシート・発言)

15	○自分の 1 日を見直し、チャレンジカードを作り、話し合う。	・前時を基に、家族の一員として、自分のできることを考え 1 日の計画を立て、規則正しい生活ができるようにする。 ・少人数グループでお互いに気付いたことを伝え合う。	【関・意・態】 自分の生活を見直し、よりよい生活ができるよう意欲を高めている。(ワークシート・発言・観察)
(国 語)	○家族に「ありがとう」を伝えるカードを作る。(国語 1)	・家族の誰にどのような手紙を書くのか考えてから書くようにする。	【思考・表現】 家族の大切さや家族の思いや願いに気付き、自分の思いを手紙に表している。(手紙・発言・観察)

6 指導の方針

○気付きの質を高めるために

- ・学習の始めに、家庭の中で自分がしていること、家族がしてくれていることを振り返る時間と、家族の仕事調べをする時間を設け、自分たちを支えている家族の存在や家族が家庭の中でしている仕事の多さを自覚し、家庭の中において自分からお手伝い(仕事)をしようとする意欲を高めることができるようにする。
- ・それぞれの家庭での生活を振り返る場面では、予め児童に家庭によって違いがあることしっかりと伝え、各家庭によって生活環境が大きく異なることに十分に配慮する。
- ・仕事の体験をする場面では、自分でやってみたい仕事をボランティアの方々に教えてもらう場と時間を設けることで、仕事のよりよいやり方やコツを見つけながら体験することができるようにする。
- ・ボランティアの方に教えてもらった仕事のやり方やコツを友達同士で伝え合う場面では、仕事で使う道具を十分に用意し、言葉や具体的な動作、演示を交えながら体験できるようにすることで、児童が様々な仕事のやり方やコツに気付くことができるようにする。
- ・気付いたことをまとめる場面では、児童のつぶやきや発言を共感的に受け止め、称賛をすることで、児童が積極的に気付いたことを書いてまとめることができるようにする。
- ・自分の思いや気付き、感想をお互いに伝え合う場面では、付箋やシールを用いた交流活動を行うことで、児童が相手に思いを伝えやすくなったり、児童の思いを一目で読み取ったりできるようにする。
- ・自分で計画したお手伝い(仕事)の実践後、家族からの感想を聞く機会を設けることで、実践に対する充実感や達成感、自己有用感や自信につなげていくことができるようにする。
- ・学習の最後に、家族への感謝の手紙を書き、家庭に届けることで、これまでの学習を振り返ることができるようにする。
- ・仕事の実践は学校と家庭で行うため、家庭へのお便りで活動の趣旨を伝え、理解と協力をお願いし、家庭との連携を図ることができるようにする。

○校内研修との関わり

本校は、『学び合い、考えを深める児童の育成～「なるほど」を引き出す交流活動の工夫を通して～』を校内研修主題とし、児童が「なるほど」「わかった」という実感と充実感を得られるような交流活動の工夫を検証してきた。また、交流活動の工夫を通して目指す児童像を、低・中・高学年の発達段階に応じて設定し、より具体的な目指すべき児童の姿を校内で共有し、研修を進めてきた。

本学級の児童に当たる低学年の児童は、**分かるようになること・できるようになること(なるほど、分かった!)、知ること(なるほど、初めて知った!)**を「なるほどの姿」とし、そこから目指す児童像は、**相手の考えのよさに気付くことができる児童、相手の意見(アドバイス)から自分の考えのよさに気付くことができる児童**としている。

児童がすでに家庭で行っている仕事やボランティアの方々から教えてもらった仕事のやり方について教え合う活動を通して、家庭の中で、自分でできる仕事があることに気付くことができるようになり、そこから自分と友達の取り組みを比較することで、友達や自分の考えのよさに気が付けるようにする。

○「はばたく群馬の指導プラン」との関連

- ・単元の学習の最初に、家庭での自分の生活や仕事への取り組み状況を振り返る時間を設けることで、家庭の中で、自分でできることについて思いや願いをもつことができるようにする。
- ・グループでの交流活動や演示での発表など、多様な表現の場を意図的に設定することで、児童一人一人が気付いたことや考えたことを自分なりに表現できるようにする。
- ・気付きの質を高めるために、児童個々の発見や考えを共感的に受け止め、問いかけたり、尋ね返したりする言葉がけをしていくことで、一人一人に生まれた個別の気付きが関連付けられた気付きになるようにする。

7 本時の学習(12/15)

(1)ねらい

お仕事先生に教わった仕事のやり方を体験しながら互いに教え合うことを通して、仕事には様々なよりよいやり方やコツがあることに気付くことができる。

(2)準備

教師：それぞれのお仕事で使用する道具

- 窓ふき・・・新聞紙・バケツ
- お皿洗い・・・汚れたお皿・スポンジ・洗剤・ふきん・ウォーターボトル・たらい
- 洗濯物たたみ・・・洗濯物(ズボン・長袖シャツ・靴下・タオル・給食着など)
- 上履き洗い・・・汚れた上履き・ブラシ・洗剤・たらい
- 玄関掃除・・・ほうき・ちりとり・小ほうき
- 靴下洗い・・・汚れた靴下・洗剤・洗濯板・たらい

前時の学習までの掲示物、本時の学習の流れの掲示物、シール、シールを貼る台紙

児童：ワークシート、筆記用具、探検バック

(3)展開

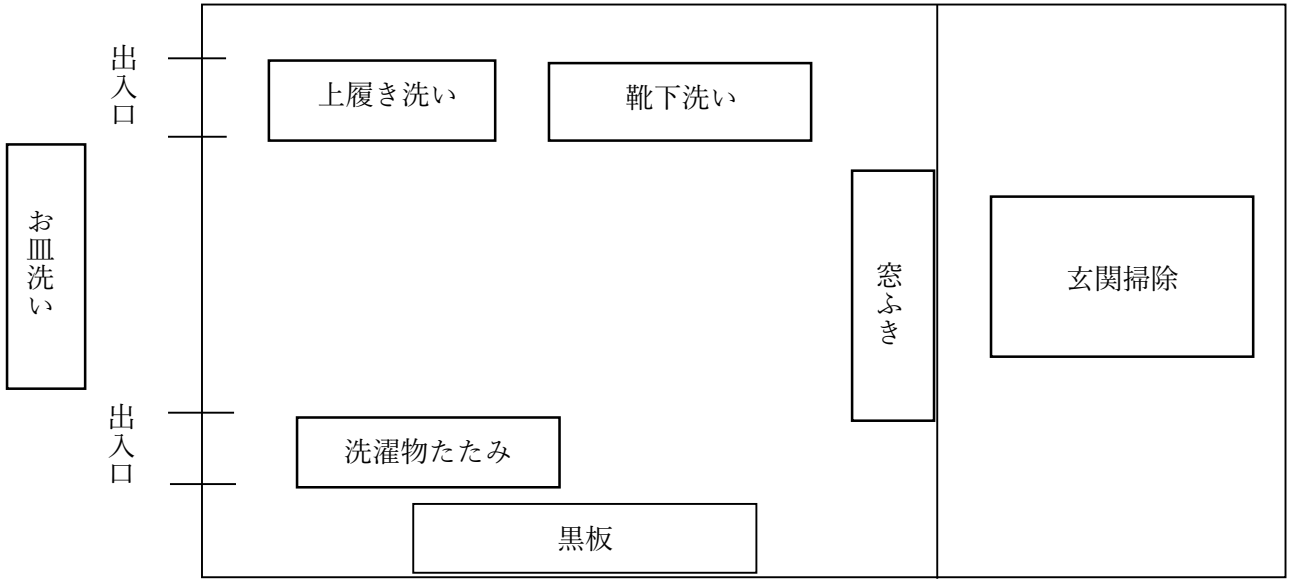
学習活動	支援及び留意点	時間	観点	評価項目
			(方法)	
1 前時までの学習を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習の過程が分かる掲示物を基に、単元全体の学習の流れを振り返りながら、「家庭でお手伝いをするため」という体験への目的意識をもつことができるようにする。 ・本時の学習の流れを確認することで、見通しをもって活動に取り組めるようにす 	5分		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて おしごとのこつやよりよいやりかたを見つけよう</div>				
2 グループごとに、仕事を教える側と教えてもらう側に分かれて、それぞれの仕事のやり方やこつを教え合い、分かったことをワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事で実際に使う道具を揃えておくことで、実演を交えながら、児童が分かりやすく仕事のやり方やこつを伝えられるようにする。 ・教わる仕事を実際に体験できるような環境を整えることで、それぞれの仕事のよりよいやり方やこつを実感できるようにする。 <p><教えるグループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お仕事をする際のポイントを説明してから、実際に体験させながら教えるようにする。 <p><教わるグループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に考えておいた「教えてポイント」を伝えてから教わるようにする。 <p>(教え合い・10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いをした後には、教えてもらった人が教えてくれた人達に自分の思いを伝えるシールを渡すことで、教えた側の児童も称賛してもらえ、充実感を味わえるようにする。 <p>※シール</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤：教えてくれてありがとう 青：やり方やこつがよくわかったよ 黄：お家でやってみたくなったよ <ul style="list-style-type: none"> ・シールを渡す際には、言葉でも伝えるように促すことで、児童同士の交流を図る。 	30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気付き</div> <p>それぞれの仕事のやり方やこつに気付くことができている。 (ワークシート・発言・観察) A仕事のよりよいやり方やこつに気付き、書くことができている。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・教える時間と教えてもらって気付いたことを書いてまとめる時間を分けることで、活動の中での区切りがつくようにする。 ・ワークシートに教える側の振り返り欄を設けることで、自分の教え方を見直したり、「また教えたい」という意欲を高めたりすることができるようにする。 ・ワークシートに教えてもらって気付いたことを書けずにいる児童には、個別に声をかけ、教えてもらったときのことを聞き出しながら、短い文でも書いて表現できるように支援をする。 ・子どもの思いに共感したり、気付いたことを認め励ましたりするような声かけをしていく。 ・広げたい気付きは同じグループの児童にもつなぎ、共有をしていく。 <p>(まとめ・5分)</p>		<p>B仕事のやり方やコツに気付き、書くことができる。</p> <p>C仕事のやり方やコツに気付くことができない。</p>
3 ワークシートにまとめた、体験から気付いた仕事のやり方やコツについて全体で共有し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験から気付くことのできた仕事のよりよいやり方やコツを、全体で発表し合う時間を設けることで、友達の意見を聞いて新たな気付きにつながるようにする。 ・児童が体験後に貼ったシールを基にしながら、意図的指名で意見を聞き出すことで、仕事を教わった児童の気付きや思いを全体で共有し、気付きの質を高めることができるようにする。 	5分	
4 本時の自分の活動の様子を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時でがんばったことや気付いたこと、次にがんばりたいことなど振り返りの視点を設けることで、児童が自身の活動を振り返ることができるようにする。 ・本時までの教え合い活動を通して、様々な仕事のよりよいやり方やコツを見付けることができたことを称賛し、次時からの家庭での実践への意欲につなげていく。 	5分	

廊下

教室

ベランダ



おしごとたいけん

1の() () ()

おしごとのこつやよりやいかりかたを見つけよう

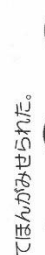
おしえてもらおうしごと・

おしえてほしいんと

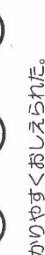
わかったこと

おしえるよほいんと

○おしえるよほいんとができました。



○おてほんかみせられた。



○わかりやすくおしえられた。



○わからないところをおしえてあげられた



○ともだちときよりよくできました。



しるんがほったシール

がんばったこと・がんばりたいこと